



風景ルルル展を楽しもう! でも…

ルルルって何?

《風が変わる空間が変わる風景が変わる心が変わる?》

「来た当初は、現代美術の土壌が肥沃とは言えないここで現代美術担当として採用された私に一体何ができるのだろうか」と結構弱気でした。ここでいったいどんな展示をしたらいいんだろうかと探りながらやってきました。静岡県美が風景をテーマにしていることもあり、《現代美術と風景》のとりあわせは早くから頭にあって、現代美術を観る時常にそこに風景がないか探していました。

そして《現代の風景》という企画を出して通ったのが2年半前になります。静岡県美という緑に囲まれた空間の中にあるからこそ出てきた企画だと自負しています。静岡ってこう全体がゆるやかな空気感につつまれているって感じで…。そうした静岡の穏やかな雰囲気とかけ離れたものにはしたくなかったというのがあります。他の場所、例えば東京とかではもっと刺激的なものインパクトの強いものをもって考えてしまったと思うんですよ。」

「ルルルという擬音語は、現代美術における風景ということ考えた時、現代の表現を特徴づける、どことなく軽くゆるい感じを表したつもりです。」

—ルルルってこう共鳴を誘うような、楽しくなるような魔法の呪文のようですね。みんな風景ルルルが観たくなルルル?

★8人の作家の力量は保証します!

★質の高いものを持ってこれたという自信があります!

★企画も広報もやれることはすべてやったんです!

★これで人が入らないなんてことはないはずです!

◆「期待してください」との力強い川谷さんのお言葉。たとえば内海聖史さんは作品がどんな空間で展示されるかをとても大事に考えている方で、出展を依頼したら真先に美術館の展示室を下見に来たそうです。それで、館内を隅々まで見てもらった上で、どこに展示するかを選んでもらったということでした。『作品に囲まれる』という考えを持っているので、県美の空間に合わせた作品を制作中だとか。ワクワクしますよね!

11月3日スタートの『風景ルルル』展は、現代美術好きの方はもちろん、現代美術は苦手という方にもおススメの、とっても気持ちよさげな展覧会です。その楽しみ方、魅力を、担当の川谷学芸員に聞きました!



愛兎イシューと

Shoko Kawatani

■川谷 承子学芸員 プロフィール

香川県生まれ。2004年1月より静岡県立美術館学芸員。専門は現代美術で、県美収蔵品で好きなのは草間弥生の『無題』。好きな場所は車を走らせながら見るプロムナードの木立。

「現代美術の醍醐味として、同じ時代に生きているリアルタイム性があると思います。アーティストの成長を見守っていくことができるという楽しみがあります。今回はアーティストの方と実際に交流するイベントも十分に用意されていますので、ぜひ、会場にいらしてお気に入りの作家さんを探してみてくださいね。」

—面白そうですね。この佐々木加奈子さんなんてコスプレして写真撮るワークショップやるんですねえ。なんか、楽しもうと思えばいくらでも楽しめそうな展覧会という気がします。

◆佐々木加奈子さんの作品の多くは、風景の中に自分を置き写真を撮るというセルフポートレートです。今回の紙面の背景に使わせていただいたこの作品《Outcast,2005》は詩的で、まるでワイエスの絵のようだと思います。横たわっているのが佐々木さん。

●この展覧会は、静岡をソトガワから見ることでできる川谷学芸員から現代美術はちょっとと敬遠していた静岡の人たちへの贈り物です。プロムナードを歩くように作品の中を歩きシンパシーを感じたら、あなたもきっと呪文のようにルルルと唱えているかも…

